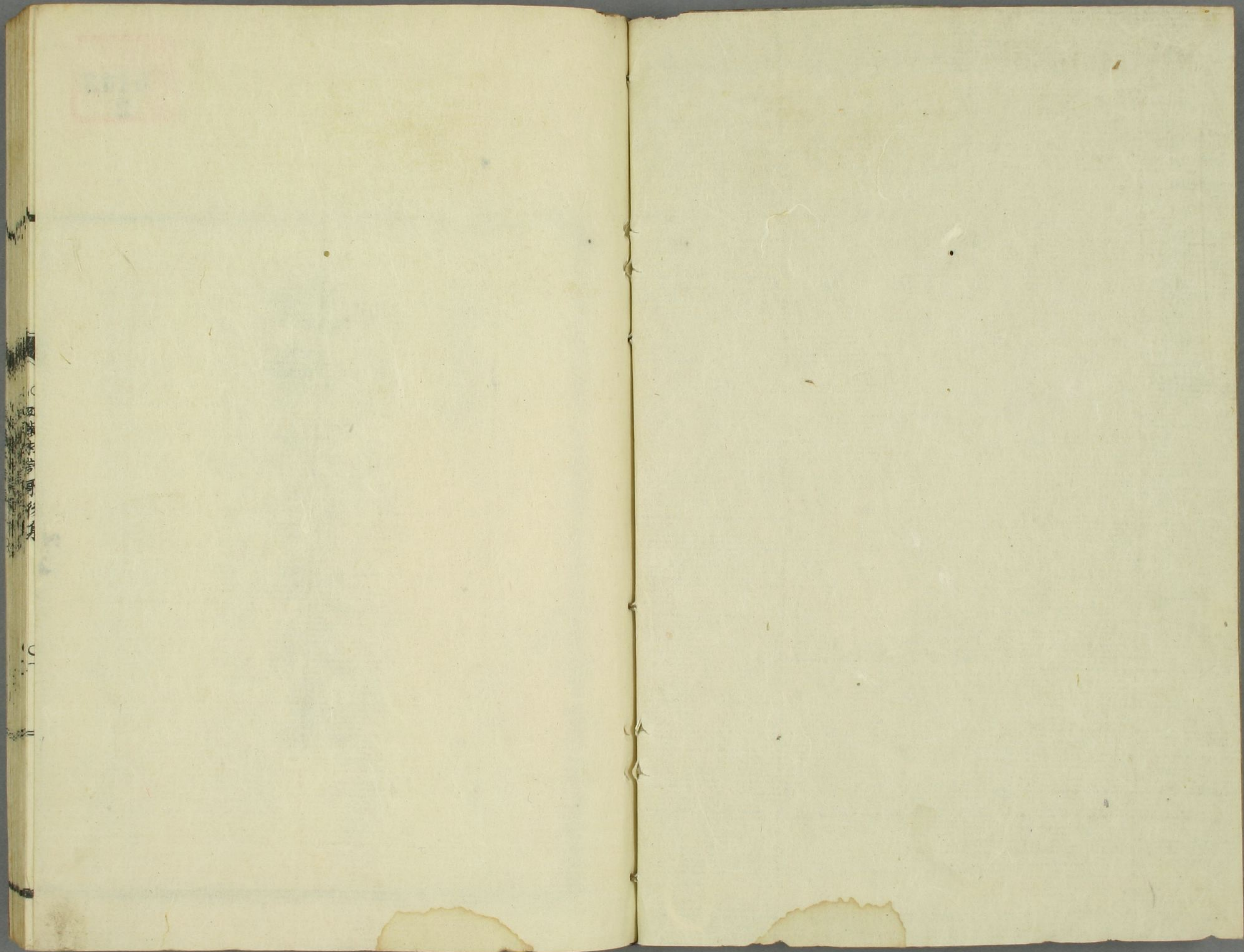


延齡松詩歌後集 全

^ 1
5143
2





門 1
號 5143
卷 2



延齡松詩歌後集

書博士加茂保誠

聽保誠心齋書

○延齡松詩歌後集

○

月傍の國長河の池の
ほろあよまなる小松を
源齊真のつるさし
比根あしてち道む

なる松のよまなるし
植られしのかげあひ
しる葉のあひまは
あるしとゆふし

たのしく家より傳むいと
ねむいかにてはるは
歌松と各付らむ
さして

醍醐權大納言殿

名よおひし齡をきり年をて
あふのこゝろある松の木のまに輝弘

姉小路權中納言殿

佐々木はあまねかきつるこの子世来
名よこゝろ辨も宿角す別笑えと遠

万葉路右衛門督殿

歳らよはらひよとにあはらふ
くく魚さし屋との松えん房

伏原三位殿

うえ松のを屋木さくく宅好也
こは心いさすおとさるるか着角

七條三位殿

松の葉にのるるの年と老らく
か茂末ささくか枝かか山船信元

清谷権中納言殿

老志あつるるの仙か
よとこの海のみしら好ちるる正

野宮権少将殿

吉やよりの昔より世に宿たれや
名にゆき世は終りのつゝも実功

石井少納言殿

春は花千の早やるも世乃陰小
よけ花を延く終るも世は行光

十餘三

綾小路侍從殿

若乃よりの末とて契れる酒
百のれらと味とめはは志て俊賢

千種大夫殿

名とよの心とてはねははあやふ
まなは栄とせよめらひは有文

一條元大將殿

詠

延齡松

延齡松

延齡松

幾代に梢の

よりも深き

まはる松の

陰

を

延齡松詩歌後集

六

御室御所法親王

法高見女まら松子住列々

水直以子世心し志ら齋乃夢遊然

松子住列々

菽山縣亮

卉木之生必資于水得以致其暢茂不然則不彫然
枯者鮮矣凡物皆然豈獨卉木而已哉臺道村上田
氏之庭有一松樹焉薩今侯嘗取之於長澤湖畔而
所植後又命名曰延齡之松夫長澤之為湖延袤廣
大水波汪々松之環湖而生者資其滋潤莫不皆暢
茂也然則松之宜於遂其生者當莫彼若也且侯之
所有三國亦皆瀕海、持水之大者已魚鹽產焉寶
貨出焉乃資于此以潤其國而闔境豐饒民物富庶
是以建國以來七百年于今矣屹然不動是其國延

齡之永他侯國之所不及夫松之在湖畔與侯之占
海國均有資于水焉是氣類爲相同既同其氣類侯
何不思所以使之遂生而反取而移諸上田氏之庭
也蓋上田氏之居距湖不遠是以其水脉流通於地
中而松之資于潤猶在湖畔乎且夫湖畔之松不知
幾千株其小也困於牛馬之蹂踐及稍長或有夭於
斧斤之剪伐然則欲延其齡豈不難乎猶此松入于
上田氏之庭外無剪伐之患而內不失滋潤之養其
能經千載枝凌雲而幹成龍鱗者可知矣由此觀之
所謂宜於遂其生者不在彼而在此也上田氏世以

釀酒爲業酒之於水亦類也乃資于此而家富財豐
愈久愈昌者豈有異於此松哉於是乎知侯之所以
名松者乃所以併名其家也今茲余漫遊也訪上田
氏而飲其酒而觀所謂延齡松者聳然特立翠陰覆
庭及其記之自覺如其酒勁冽之氣有發而助之此
或與松同資其潤也則雖公磨之文亦安知不傳久
而延其齡耶

京

賴醇

鬱々長松落驛門感曾君子手栽恩往來願宿翠陰
下閱到侯家千萬孫

萩 完戸真徴

ふみたらしておいささるる松の戸ふしんさへ屋ふせもぬへさ

大阪 高橋榮子

らやとていささるる松の戸ふしんさへ屋ふせもぬへさ

安藝 野田氏久

ささるる松の戸ふしんさへ屋ふせもぬへさ

同 坂口村重

いささるる松の戸ふしんさへ屋ふせもぬへさ

京 隈川春雄

いささるる松の戸ふしんさへ屋ふせもぬへさ

豊前 白石牧

萬乘手栽枝葉繁想知千載罷榮存鬱然已耐凌霜
雪不負明君培養恩

讃岐 片岡琵琶溪

長松蔭侯植高蓋覆庭園題詩為君祝千歲綠陰繁

防府 草坪

延齡松鬱閑庭裡薩國幼君手所栽枝葉克會後稠
色不知霜雪不染埃

安藝 望月重富

松の戸ふしんさへ屋ふせもぬへさ

安藝 大石良道

蒼松鬱々倚樓臺佳氣氤氳入檻來
衆木風霜凋萎日凜然長見棟梁材

同 今中直信

孤松鬱々秀碧廬清風時動和瑤琴
策名千歲應無極春到偏添黛色深

同 梶川訥

翩々春鳥自西來霞佩雲裳倚玉臺
一宿志應期再會萬年枝上掛襟回

同 梅園一貞

聞道庭前有松樹千歲盤根似卧龍
公侯士庶多相慶已著文章又詠詩

江戸 秦謙

植節是公子老時茲大夫酒光似松露
清應壽杯扶

安藝 花房春俊

雪霜未盡松色依然松之節也
或君之齡也亦存心

大坂 有之

松之節也或君之齡也亦存心
長寄 中寫廣足

うきやうの松はらうの坂さゆく君の志をりて

高松三位殿

正三位守實

と語れば

松の言えに

取添く

いさや祝魚

遠き場所人

高松大膳権大夫殿

延齡松とある

物いけ何し下町祝く

たし

まじ

ふせ

むす

一度

常盤木

暖く

深き

周防

高橋延實

よ死人のよもひちももて陰の名もそくくむなり庭の松枝

女藝

奥田在中

と来とわくよもひ延らん此やとれ松の葉よは子代を契りて

防府

武田泰信

さうぬ松のよもひとももろとみせはうえん宿のゆくす傍

筑前

由房

海山をへそく遠にやとなう松の姿のみあまらう

同

元女

らやちそなまらつて南長海の松よ南やと松もまらハ

同

今泉言道

くれぬの苑のうもくえきよなまらつてらややの松の枝

同

貞祐

とねらよ志をれる松のり唐ハおもひやうもまはし

同

貞一

人ばてふきうはまをばとて浦でなうれまののあを志く城

同

貞則

きみゝ家れ松をいふるこもふいこれを代の浦はこもさる

同

貞

なごさそれ松を根く此宿の君のめくみはち代よりそむぬ

同

丁以女

うま人形うし極う松あり千代の海うてさう由うら之

薩摩 谷山國貫

散うとぬおのこれ系とるくさかさあゆ先は系本とるかこ

あつ先くくくこれ玉のこくを君もうけとるこれいん

こしく小色そふ松も此やとれさるん中君はうけとるん

きみもまよひけり松のゆ来いしく十ふれはうけとるん

大阪 小山 魯

凌雪後凋叟蒼翠益榮四時元壽色百尺自堅貞

濕雨龍鱗動蓄風琴韻生高標留雀宿不背歲寒盟

肥後 内藤 俊

薩侯他日予栽松未老其鱗已若龍今日亦停我君
駕斯榮何減大夫封

防府 佐伯古城

南薩之公此駐驄移松遠自長臯東早看繁蔭堪遮
雨預識高標欲聳空曉雀声過風細處春雲影落月
明中應嫌秦爵汚清節不昧亭邊托酒翁

同 半癡生敏

蜿蜒宛似老龍蟠愛聽乾濤澄耳根珍重曾辞大夫
爵孤高長占杜家園

Bij het aanschouwen van des Sparte,
boom gevoel ik mij geneigd tot dank betooning
aan Hem, die het Heelal bestiert aan onder
aller koning.

Gij wonst van Sateuma gij plantte hem
in de jeugd.

Gods goedheid deed hem groeijen
Gij zag hem van jaar tot jaar in deugd,
en in schoonheid bloeijen.

Zijn beperkte klein speid thans een lom,
mer al dichter als een sieraad van zijn geslacht en
tot eere van zijn stichter. O! dat geen storm,
men woeste orkanen en misfelvallig hein u
krenke moog, op aan u oordenkom knagen,
maur dat gij eenigen lang na Gods riel be,
lagen bestaad gelijk op dies stend, is mijn op,
rechte been en dat, o wonst estam, ook een,
mij soo mag bloeijen; Dan dal u nage,
slachta, was onheil ook moog boeijen bij

het aanschouwen van die boom en
schoon dat hem omgeeft, dankbaar
gebenken aan Hem, aan Wien
dit alles zijn bestaan te danken
heeft.

Satima, den 5. j onialj 1845.

カビタシヒートルアルトビツキ

右の解

此松樹を望む御まて地の化育萬物の養成を感ずる
是る薩州の太守御齡幼少の時此樹を植給ひしとき天
地乃惠厚く年を追ふ随ひ成長しつゝ又くいつくしく
老成せしむ枝葉もいや増し其陰鬱くして繁茂せし
是此樹の葉木よ秀きる位りて且植給ひし時 太守
此御譽まきとの言つる鳥呼稀なるが数十年経今
もてても逆風暴雨の災害なく又圍らざる變りも何ん
そ異安靜の年経思ふ天意よ叶ふと鳥呼敬賀
と一植給ひし太守の松と齡を同くしてり末長ふそ

恙渡らせきこふ松をたす御代菊の葉は枝もて目
度榮え給ふなり此松の盛り妙あるを望みけい
いふ此松のやうなり

和蘭曆數一千八百四十五年正月廿

くはん
むいさあふと
むいさ

解者

長崎

榎林某

岩瀬某

Deed spattenboom les beete van Cui,
 den bom en kraack, Schenke is nog een aan,
 lat jaen les genos onder sijn lommer te
 rickten, hij dal na meer dan Duidend ja,
 ren nog aan erte Nakomelingen tot herin,
 neting strekken dat hij door eenen Idelen
 Vorsten hand van een künner voorouderen,
 op leden plek aan den Schoof der aarde
 is toentroons. —

Nesima, 4 Januarij 1845.

カビシ筆者

右の解

此松を貴きまはしむる此の(植置まゝありまはしむる)
 うゝる業えしむる御代業代まゝも松の本陰まゝも
 あまふま

和蘭曆数一千八百四十五年正月四日

筆者阿蘭陀人
 阿蘭陀人
 阿蘭陀人

解者

長崎

榎林某

岩瀬某

十餘三

延松詩歌後集

〇十七

千種三位殿

正三位有幼

正三位有幼

正三位有幼

正三位有幼

正三位有幼

京 座田維貞

いづらもいぬ名をわたりし松のこゝろをわけて

肥前 加藤玉榮

わが世をわき世のあやとわつる名をさのやん松のつゆと

防府 權代盛貞

あけ風吹よまをせて玉松のまよりそつれやうをうきく

京 矢盛教燮

玉松のよらぬもなうくあさみの池をうみううつうをそ

同 高畠式部

松風のあまらうかよひはきく(まう)きやうやれをのてを

誰哉松樹薩摩公蓋影横檐自鬱葱閑坐清陰聽天

北條氏燕

籟齡延不昧一庭中

東條惟適

庭松不昧翠陰新勁節延齡比主人蓋覆高檐棲白

筑前 ほらめ

うけそく君のまの松を遊くもかたをもつれん

江戸 清水謙光

未だわくまのいのかれ松をいかに代建らるる

豊前 名村正章

不昧者心邪此居是以名田氏世富豪所以播家声
庭階松數株楨幹各挺生枝條互飄逸偃蓋且縱橫
風前龍蟠蜒雨後玉餘清數入騷士詠表顯公侯情
寧同蒲柳質偏為歲寒盟亭文森散竒趣日月成
主人向予謂此物勿相輕薩國名公子欵愛表具貞
舉裳遊其傍盤桓意頓傾聊此裁五字併旌萬年榮
冒雪立嚴冬可知靈秀鐘長成梅竹伴常接鶴龜蹤
滿地四時碧凌霄千歲濃雄風吹不斷君子手栽松

土佐 堀内衡

防府 村上克實

大道田生宅閑庭松作叢色分姑射雪幹動蘭臺風
栽受薩公澤封應秦帝同賦詩強塞責堪耻女兒聰

讚岐 中村耕月

薩公曾植一株松鱗鬣恠他蟠翠龍壽福千秋與君
共子孫應受大夫封

江戸 石黒貞女

多とほむ極々松の生れやしを思ひつゝあはれや
同 鳶福行

二葉よりらびしかきねて此のなまをせしやと松も平のま

讚岐 柳燕石

老幹崢嶸蟠虬龍嘉陰想見滿庭濃大藩公子其棠
愛一洗當時秦帝封

全 國子誠

長澤元知產鮫龍盤根託靈一株松當時忽得風
勢直捲濤聲嘯九重

伏見 今堀真中

うゑのつと君よまゝのりや鶴よりも子世のらとわねはあかりん

京 高田真鋤

こゝろをう子世のらとわねはあかりん

讚岐 釋 梅塢

公子從栽幾歲餘清陰愛看覆庭除渠儂猶能念恩
否擎盖似復長者車

防府 南部彝

薩藩公子過山陽客舍栽松水一方曾借光輝榮陋
巷屢兼雨露仰天潢期將梁棟資高厦寧與芳菲媚
錦障六月行擔此憇息綠陰蚤已是清涼

筑前 臼井茗圃

薩藩公子此留車松樹移從長澤涯不昧主人真不
昧亦教孫子筆生花

薩摩

長崎枕流

うゑれがそとゆゑの松の枝こゝふこゝれり千代を君やこそ色ん

周防

上田比佐種

千代の友はふあも人もよもいのかてぬまののたうを

薩摩

松木宗保

十づり花さくゆもむねのむてうらんもれり君うらむ世

同

長野祐喬

あさけやまのやまゆもむらうあきみはるのまつ枝

防府

鈴木直道

うはし極しそ人の名ともあつたにきりうらむ宿のまつえ

土佐

岩井真澄

いふゆもゆかか〜うゆ人の周防の國長津のつみよた

き〜池のなれ二系の松をぬ〜つみてよ〜て葉枕旅乃や

とやの千福生ふ上田のぬそのふ〜う〜流るるなり成実

もふ〜枝の松乃み〜をそ〜ふ志〜い〜ら

て葉代を池の汀よ〜と〜龜のたを〜う〜木末〜を〜丹

のたのも松で立て千代よふ〜松風よひきあひつ〜は〜人

結齡をのふ例よ〜あ〜お〜勢ある松のむ〜も〜

反奇

うゆ人の〜そ〜あれんそれ松乃ゆ〜う〜きけいあやよ〜あ〜

薩摩 鮫島黃裳

吾公曾植寸苗松繁茂經年青黛濃
偃蓋蔭深栖白鶴蟠根苔古養蒼龍
濤聲起為清風起雲影重因密葉重
請看延齡千載色佳名不讓大夫封

長府 臼杵申

掌大庭中百尺松蒼二張蓋四時同
德輝添就公侯澤分與延齡付此翁

岩國 香川湘南

入雲青蓋影重三陸露滿園佳氣濃
愧我寄題無好句十年耳熟延齡松

防府 五十君夷守

うはきて世遠松小松もあしらの子代のもみとめり
大坂 高橋壽久

岩國 米元基理

志分りあふ松久此此やとけきとをれとの
江戸 石黒常轉

大空を高くたれも此海をうらみく
えんてまきりく海をうらみおひ
あきくはまなる松りか

薩摩

中山實美

ふりねはききもくろをなすれは君をちとせれうしゆか

大坂 榊清蔭

うねてよりとれはきいみえあし千代のうえをまの蔭のちと

清末 教之

あしをねんをなきしう極千代のう所の屋をねまじり技

肥前 小島某

兼千代も長海の色ふひくねりよといもふやふふねやや

江戸 前田夏蔭

ふすまひよ極一ふとあかりあいてちとをねのともやなりきり

賢公乎植一株松
四十餘年積翠
濃雲繞高梢
白鶴子秋不改

歲寒容

右題周防國臺道村

上田主人延齡松此

松原是

太守公所植至今已
經四十年故取延齡
為名

琉球國

中山鄭元儒稿

土佐 安光 確

薩侯幼植數尺青公當國日龍形成佳名再賜延齡
唱欣喜羨君厚恩榮曾知慶元天収武幕下美稱推
松平候伯往ニ冒其姓天下生靈幾延齡薩侯元來是大
鎮傾心輔治見忠誠植松延齡豈徒爾國運暗佑松
平名君合其會是何幸長聞松上龍吟聲

薩摩 山本國郷

五よれ八松のふりた旅とも千代の陰まてさつなまけじ
なみくれ松とともえん長海流はくみよ今も根をゆりた
一とよふ一まひならうりやとせ雖いらくむやなまじん松の

伊勢 釋摸堂

芝蘭玉樹玉壺中別秀庭前十八公雪壓靈枝寒不
改鶴棲清節壽無窮凌雲偃蓋興龍雨嘯月蟠夜生
虎風昔聽薩侯來手植大夫何恐有秦封

肥前 柴田三生

陰まて紀形瑞の松を千代の坂えりさみりーをりるるをよ

京 村上さより

植一人の重代万代をともさねる松のこころふらさるれさるむ

宮嶋 徳田守禮

松乃系やうそへともふりーち代りるふ

岩國

森脇九華

防州臺道上田氏宅有薩侯所手植之松重蔭覆屋
主人夫妻子女皆風流間雅朝夕與共團樂其下而
琴瑟相和其樂可知矣四方學士大夫及緇素從而
歌詠之凡二百五十餘首集成一冊平安皆川淇園
賴山陽皆有記併上諸梓以布于世今茲天保甲辰
二月友人杜君子敬奉君命使于長府途中訪上田
氏而觀松話及山陽記主人欣然出其真蹟以相樂
臨別又取夫一冊上梓者以為贈云頃者子敬諸社
中二三子詠上田氏之松因索予文將以酬主人之

惠予謝之曰文豈敢抑有慨焉先是文政丙戌予亦
嘗西征路由臺道有土人指一門牆曰彼上田氏也
彼松薩侯所植也時予意匆之過而不顧今閱夫冊
有與之人有羽之人以與羽極東之人尚有寄題予
則與主人同州之人何不一句及夫松然而未有望
其門牆則可既已望之未有知其薩侯所植則可既
已知之而一句不及焉何也且予敝廬亦倚松而居
焉乃與主人同所愛也何不在我而及彼是所謂無
緣者乎亦何已甚今據淇園記薩侯植松實係寬政
丁巳乃予生之歲也予於夫松有如有緣者矣而其

無緣如此焉得不疑嗚呼噫嘻物各有類自丁巳至
今甲辰四十有八年矣予於世不能有寸補事每蹉
跎聲名未聞里而我有二古松相繼推為新矣惟存
五六小松長僅過簷若夫蔭所庇夫妻子女風流傳乎海
來巢而主人為其重蔭所庇夫妻子女風流傳乎海
內彼於彼類我於我類彼之與我蓋非其類則其無
緣固其所也今有子之需因陳其無緣者是亦未可
全謂無緣者邪遂書此以與之

同 樋口鮮菴

不改歲寒姿乾二無四時天呈斯吉兆壽考還無期

西遊未歸廿餘歲白水青山夢空濟也識君家名於
松何隨清陰聞鶴唳

同 朝枝一貫

松の名を千代もとろふ印々々々々々々々々々々々々々々々

同 坂本雲耶

公子移來經幾時一庭龍影歲寒枝寄題今日知多
少外史山陽曾記之

同 朝枝文言

大いなるものゝと長津の松はあつとあつとあつとあつと

同 藤田葛潭

寸條尺餘曾孰栽遙憶周南臺道隈今日驛途多少
客無人不道見松來

同 安達九霞

移植穉松春幾春偃蓋重ニ老龍鱗山陽外史淇園
叟出ニ好辭先著鞭卿相侯伯四方士宋體明樣競
翻唇神飛未結西游襪官海十年奈漂淪吾友杜生
使長府門前停馬何善因問松觀松聽松故小冊帶
歸傳近鄰冊中時有龍吟響喚起詞客與文人探句

摘章非吾事沈吟一夕亦効顰湛露盈ニ風颯ニ松
陰濃處坐團欒綠酒金尊興不淺吾醉放歌君弄絃
恍于夢境醒尚訝一穗殘燈冷枕邊

江戸 荒尾成允

岩國 香川江牧

周防 釋玄趾

薩國貴公子手栽庭上松葉繁栖白鶴根古卧蒼龍
朝聽風煙起暮看雨露濃歲寒猶不改綠色幾重ニ

小倉宰相中將殿

高人何歲植庭阿
聞道蒼々作大柯
松下幽亭招騷客
清音日伴吟哦
藤豐季

錦路中務少輔殿

春種乃多也紅葉
一盛
頼易

伊勢 足代弘訓

紀伊 本居内遠

豊前 不知女

萩 西村寛言

肥前 田嶋一中

むとけはらちとせ成まの松をを齡のまをほとてふよ
ねえのまをほとてふねををにをほよ砂ほつすもおよ
ううう松松松のまをのま後感ううみち代らううから
美代のまをと極かかまほいそとせ色てふお松
このまをふ子代をなうお松を根さうもほきあまをほ

相模 平尾信種

萩 松山美季

京 玉田永久

因幡 釋正音

長門 竹内竹叢

千糸結齡のゆてふねをまをほとてふやうらけみふ
極よむ君とあま此方代よあえてさうゆらまのそ名ま
月寄を毛もほくくやあ月松

豐前 八條半坡

周南上田氏庭松瑞氣濃根株深且固直上勢凌空
薩公童巾日東征儀衛雄戲嬉驛路側手自抽稚松
携來憇此亭種之前庭中尔來幾十霜柯葉轉青葱
來往人盡敬何羨大夫封况復後彫質長伴主人翁
翁自有仙骨壽考與松同鬢髮已為鶴松亦欲作龍
請君食其實又分遣薩公與公俱保壽千秋樂融融
高餘盤根共數尋看知勁節與堅心生涯常抱凌雲
氣不畏歲寒霜雪侵

讚岐 奥 卯 強

外使新對人間對對外十土佐 南部巖男

固防舟のれいもやのまゝ見をなくたをふいけりみのも
あゝ糸のて敷のあ子の松子もとみまをいりておひく

同 野村御楮

作んるこも此迄も万代り咲栄ゆあふに居るすけり枝

同 渡邊 條

あなハ四のねくも魚よむくくしりあふくかきおねまきくひあ

豊前 五雲

みとやとらんがうきふきあや招りて

某殿男房

子息

只母

志乃

一

志乃

え

清末 十入江櫻

公子曾從薩國來一移斯樹此相栽條含靈氣嫩秦
爵蓋起雄風拂楚臺鶴影翻時華露散龍鱗卷處瑞
雲開盤根猶自餘思澤長使流膏入酒杯

土佐

前田及

其山人の歌を松の代よりて桂み陰よ志を松やうり

同

松本弘蔭

けりし松やうり松の枝を所をてい所は今も八代屋て

豊前

甲樂城安俊

齡をも短てふ松を於多めてゆる君や手世を理忍良年

大津 船越守愚

曾訪尊翁接酒卮盤桓尚記撚霜髭松鍼蝨羽共繁
茂今日新陰添幾枝

京 閑全

月美ふ鶴もやとあや松の如し

筑前 釋峻嶺

古人何所愛我愛後凋松含翠風霜傲吐烟枝葉濃
呼為高士友不羨大夫封雲雨林園曉時々認躍龍

長府 兒玉信興

移松名苑裏何日作龍吟已帶千秋色枝々翠結陰

土佐 伊部中世

蔭高松根志く位有松系人の影もうつりあはれや

周防 三宅暎定

色うの蔭をふあをむひり名も影のふてふ蔭をふあうえ

信濃 千村重騎

まをりて是る人ふふ代にけくよとひをのふるをりやうゆつ

豊前 佐藤弘宗

二葉より影をのふれ飛小松を思ふはやとふふ代や理ぬを

肥前 待勸

名うおら桂乃人の影をものてきうえより蔭乃まのり枝

長府

田伴經

公子留車酒肆春移栽庭際翠松新從今千歲行應
茂風作琴聲樹作鱗

備後

栗田孝棧

松蓋掩庭書牖深清音細々接琴音世子手栽應有
意令君長伴出寒山

豊前

釋無窮

培植孤松樹森々古砌中更思秋月夜閑坐聽清風

竹幹

栽得長松樹清陰日以深羨君風雨夜飽聽老龍吟

山城

燕石逸

不味園前百尺松雄風當檻綠陰濃栽來世子千秋
跡青葉如雲又似龍

京

可亭

檐前幾尺延齡松葉々枝々翠色濃計識千年繁茂
後半天蟠屈老蛟龍

美濃

釋靈淵

薩疾遺愛鬱青葱十八公榮誰比功葉密三春遮驟
雨陰濃六月引薰風秋聲颯似波濤閭寒色偏凌霜
雪堆四席賞觀終不改羨君保壽此君同

出羽 神保格

栽來已十八公本鎮雄邦繁杪常棲鶴蟠根自作龍
即今幽客愛維昔大夫封請看歲寒色翠煙雪後重

飛杏

屈曲古松自蜿蜒嘯雲嘯雨卧眼前一時若遇風雷
怒只恐為龍飛九天

周防 福田次常

傳聞田氏愛孤松寒歲後凋柏與松飛雪似花連綠
竹瑞霞如畫懸青松黃鶯求友戲梅樹白鶴引雛巢
老松德等甘棠公所植壽名况賜延齡松

肥後 南條長茶

聞說延齡松來由誰抽誰栽是蔭候舞鶴栖鸞弄動
搯偃蓋鱗條拔伴流松乎偶然得知遇光榮既勝主
一丘手書且賜延齡瑞瑞祥到此如何酬和鈞長傳
昇平澤蔭隅日州及琉球

清末 飯田秋期

雄藩公子氣湯々手自栽松庭一方請見千秋無限
色清榮猶與主人長

播磨 田中童

鬱々庭松樹昔時公子栽今看恩寵厚終是棟梁材

勘解由路資羨卿

雄物手載城に兒

凌雲と等と備材と

桐傷

江戸 海野遊翁

松てふあはれはつらも松のつらも代々願ぬ先中子世て言
なしくひきしれらるふもはらうやとそくうらむかた初由ふ
あはれを思ひ位をたし松根をく舞うともあはれを思ひは種を
まはむし〜我をく久〜かきりかきよまひのあはれ思ひもそ
雲はあのをたむく樹系〜たりて〜いさうえうゆ〜
あはれお〜

なつさその種を植ふる松もまを其若代り所の由願ふ可那
同 久松祐之
君うらみさりけ小松形と思ひ〜を志ありはつ〜

周防 河埜通定

京 釋清香

松乃活々名も長江よおひそめちりりひれ松めさるる
まればそなたもよもひをのやふ松の名もそ我のあえおの

同 頼攸好

靈根秀碧即看真雄勢凌雲不易訓長嘯一聲風雨
夜飛騰却怕起龍鱗

尾張 原辻

一樹青松透驛亭陸公手植試延齡年々著綠蔭盤
鬱風起真龍吟滿庭

陸君昔日手栽松卓立森々勢若龍好免世間芥芥
害千秋無恙綠重々

備中 龜陰

陸州公子過山村曾擢釋松栽此園休怪主翁多壽
福長蒙雨露養靈根

伏見 臼井絲仲

京 山根輝實

桂おきし君の代もこれ松の名をゆねひそくかたへるる
五百枝さし杖つく世をいづくもあひつる松

德山 田中玄仲

數松相列畫堂前世子曾栽培全葉々纔垂青蓋
鬱枝々總帶翠烟連元知貞幹凌霜雪行見良材耐
棟梁五馬重當停駕日風猷頌就掃如椽

大坂 釋飲流

公子風流此植松逐年繁茂色偏濃蓋成看欲棲仙
鶴幹長行將學老龍尊筭堪期千歲壽榮歸奉祝大
藩封賀君庭際連嘉木迎駕洪陰設禮容

京 釋大室宸

虬幹未盈尺已見凌霄氣流膏入僊鼎欲古幾春秋

備前 梅煙村

聞道庭上公子植蟠根忽作老龍鱗從來自得王侯
愛是為主翁風致人

同 鴨井長洲

維昔名侯手自栽主人敬愛棟梁材想君知伴蒼髯
叟長見千年迹職來

薩摩 尤近亮蘆洲

月の友ふかりをふ戸坎のよりふひの那
肥前 鍋為茂延

らるゝふみろをそへて唯松のそは名もたゞくふ代を色もそ

伯耆 兒玉王立

松樹庭中在 薩侯試手栽 々成孤立秀 念有仙禽來

京 谷森種案

る川の名は子世まつる 庵んだも此とてふと 衆もあなぬやとつ 討

讃岐 菅惠美

庭の松君うよものよまうひてつくし 二つ乃毒、はくく 舞

同 三宅遊哥

志久れ君うちとせを松の名此よもひをのふれ 庭此とてふと 木

防府 藏重高訓

ゆいこもさぬ 何れも子をば 衆もあなぬやとつ 討

近江 高嶋高陽

ういりおくもいひのあさるむれいのか松をむさての外とてふと 木

四十年前 平手 齋平 八 齋 肥前 兼葉山玄行 貞 貞

雄藩世子龍潛日 稅駕從容手自我方今定識多良

引驛舍猶餘梁棟材

京 小野政敏

傳聞公子植庭蹊龍髯蒼々 盖影低不啻人間引靈

籟常令仙鶴作幽棲

常陸 小林教

聞說周南地 薩公躬植松 夭矯閑院外 千載見飛龍

京 尼連月

わくまはさくらとよしのを二系とてちを成まろそむてさうやけり

同 金剛城院周澄

かこちたた竹の菌生れ末とめて子世ふきいんはよんはふり風

同 井口須磨子

ふ代のをはものなるて長海の池よりうりふ松のこころん

同 加茂経香

四十年前君手植亭々鬱々既無類貞姿今見貫風
霜又露延齡千歳翠

周防 上田新

森々孤立延齡松影掩四隣翠色濃春复秋冬風雨
夜半蟠雲外半成竜

表作 服部芙蓉

田氏庭中松薩侯所曾栽名之曰延齡永使主人培
憧々正積翠行將棟梁材松壽今年百半秩正與主
人壽相匹幹直枝繁鬱森々猶多子孫宜家室松愈
秀曾家愈榮松乎家乎永貞吉歌之吟之欽且賀風
流文賦幾卷帙我亦一句祝主人君家福壽得儻術

菖 崑田直言

ふをせしむかぬ宿のね枝をふくふ代をうやてさうそ

延齡松詩歌集

同 村田一枝

よるひのまよひのしほのうらみあはれめてよきねの象

同 八谷通全

上田某庭有松樹焉曰延齡松名之且植之者誰也
薩隅日大守島津侯也世謂忝壽千歲侯表于西海
者亦且千歲乃名之曰延齡則此家富久余不識其
幾千歲也雖然保富者在勤與儉不在松與其名其
子其孫念之敬之

京 什一

不昧庭邊任手栽大邦公子識全枝清風細雨千秋

翠潤得龍鱗片々開

物類人影人伴物耳棠魯檜稱無窮不昧舍砌蒼松
樹蔭侯嘗親栽庭中更賜嘉稱延齡號迨今龍幹欲
摩空偃蓋庇家人皆壽靈露潤屋物亦豐遊侶吟朋
懋宿士西藩東官來徃公藻客詞章騷人詠片帑尺
素葭滿籠憶昔茲松貴人植延齡嘉名寰宇崇積翠
凌霜千載盛勁操冒雪萬年雄不啻喬松四時綠本
支百世共蔥蔥

掃々也よるひのしほのうらみあはれめてよきねの象

○延齡松詩歌後集

○四十五

京 鈴木こま女

松のせむねをみとりてくさくさのよもぎをのりて庭のひとをたじ
薩摩中将家の女房あはれもれぬしり年暮

きれいなちて

わらわりのふたねがれ松をうきてよもぎの物も石ころり

江戸 仲田顯忠

きりぎりすのせむねよむさがる松のまはりかゝるやそはひのわらうき

京 岡村酌中

幽園冬日緑重々公子曾栽一樹松丹藥何方化仙
鶴來觀千載汝為龍

周防 上田弘明

みるきひのきりぎりすの作もそはねのまはりのあまらうれ

同 林 昌世

八十年八庭の一本松のまはりきりぎりすも宿所あまらうれ

京 藤原高景

この松をみちをかくて十の松のまはりきりぎりす代は八千代小

同 進藤千尋

あはれきりぎりすの松をみちをかくて十の松のまはりきりぎりす代は八千代小

備後 釈物外

海山をあえて名さすしりせむねの

萩 石津鼓流

きしんしんまき地や好のしけ

同 坂祐順

んん人のよておねのそみやとねいしんしんまきを

同 杉本峯守

そつしん桂のきんきやあひてねのしんまきを

同 内藤大泉

小き目やふんしんのよれねのよせ

同 坪井源章

久しねのよまてすえあけしんまきしんまきのよ

長門 木村重綱

しんしん君もあやしも長はのねらうしんまき

京 别所妙子

しんしんねのきんきやあひてねのしんまきを

長門 佐久間政方

あつみしんまきしんまきをそねの面まき代のよ

京 高嶋宜輔

きんまきしんまきしんまきをあひてねのしんまきを

同 中埜正廣

ゆきしんまきしんまきのねをしんまきをあひてねのしんまきを

周防 佐甲久要

松を君は志すも此國の本をくもはくふおまはるも常磐成
松よ木くそかの實はひよりぬなつてくもえらふおは清代
をくく例もひよりまきりなれ志れを我子代のくえりく
人くもまはあまも隼人のくまは國をくめをかき
君いあひはるの中を此尾の長澤の清みくおまはくけ
二葉の小くのまねくく根くふくく清く松葉これの
うきはくくみまわくくく急強ひくえん地をたけく屋と松
あまもくくもくくもくくくくくくくくくくくくくくく
そく此木の根もたまきくくくくくくくくくくくくくくく

湯くく松くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
かふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
子若目くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

京 中整正道

かうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

同 中整正元

うきくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

同 岩松羨親

松を松をくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

萩 山根温知

子母もいかに世をいぬぬ兼代乃松庭の面より久
らうらひせぬ松のいよ

京 高島宣陽

影をたのむてをなまきまのしつをうらひぬく松もて我もあれ

同 高島孝子

んちもふ歌のそゆきもれや松の八千代のさめしうらぬく

同 田島守人

枝こも枝つくまそふはもく松のほそくくらうらひつらうら

同 弘武

同 弘孝子

いさしつを松の枝のむく末のいもせぬ板もみそまのあま

同 鳳

いもせぬのいもせぬ代をなまきまのしつをうらひぬく松もて我もあれ

同 岩坊祐文

いもせぬのいもせぬ代をなまきまのしつをうらひぬく松もて我もあれ

同 守中

いもせぬのいもせぬ代をなまきまのしつをうらひぬく松もて我もあれ

三室戸正三位殿

栄ゆく年茂るうらふ実れなり

とらふひくく宿の松の斗 陳光

近く遠くたつきひ第一にそのはぬらひ申しむもとせむら
延齡松の哥文もなききううにけうも厚きとれゆと
おやくつむれるまふ殊文は一巻と申してそやくと保の十と
さとのひとけしを梓よのちせけらそれ百大くつ雲のぬき
まよりして五十年の近きほとよなんあやうふふそのらう
あつまねをさう安政の四年とのあつた七月の板よを
けう二十年ふとぬあひひよんかうと志とれと一月の
るより敷おゆくつとまき事いふくちの松れ世う名り
をなうゆくやうとれくいとよんこさうとくそお
ほゆらうと但きの末所とくかうとふとととあ集り

丁
卯
年

夕
者
の

ゆきをくまの集り入るもすくぬくもこの巻をれまよらうて
ちりちりあはれ集りあはれあはれもねおほいさうまてころハ次々
の巻うらなを

上田光義

